

特集

# 赤い羽根共同募金運動が 今年も始まります

じぶんの町を良くするしくみ。

「あなたの町の募金は、あなたの町のために使われています。」をキャッチコピーに、今年も10月1日から赤い羽根共同募金運動が実施されます。

共同募金運動で、皆様方から寄せいただいた募金は、県内のボランティア活動や民間福祉活動、災害ボランティアセンターへの支援などに活用されています。

昨年度の本県における一世帯当たりの募金額は663円であり、この額は全国で島根県に次ぐ第2位で、ここ20年余り、島根、岩手の順番は不動となっています。これは岩手県民の皆様の募金に対する意識の高さの表れと考えられます。

地域に必要な民間社会福祉財源を確保するため、共同募金の果たす役

割は大きく、安心して暮らせる地域づくりを目的に、地域の様々な活動を支援するために活用されています。

また、地域においては、新たな生活課題や福祉課題が顕在しており、社会的な背景も重なり、複雑かつ多様化する傾向があります。共同募金は、地域のこのような課題を解決するために活動している民間団体、NPO法人等を支援する民間財源として期待されており、その役割が一層求められています。

全国的には、募金の約7割は集めた地域の福祉活動に活用されるとともに、約3割は広域での福祉活動や、県域を越えた災害支援活動に使われています。本県では、毎年募金額の約8割が、地域の福祉活動に役立てられています。

## 共同募金目標額と使いみち

共同募金は、使いみちを事前に定め、それに基づき募金を行う計画募金です。

地域のボランティア団体、社会福祉協議会、福祉団体など様々な民間福祉団体から助成の要望を受け、あらかじめ「使いみちの計画（助成計画）」を立案することが義務付けられています。

また、助成計画の達成に向け、必要額を今年度の「募金目標額」として運動を展開します。

各市町村共同募金委員会では、各々の地域の「募金目標額」を達成するために、必要な額を「目安額」として、各世帯に募金の協力を依頼しています。

本県の今年度の募金目標額と使いみちは、次のとおりです。

## 令和2年度の募金目標額

# 3億6,737万円

赤い羽根募金 2億2,573万円  
歳末たすけあい募金 1億4,164万円

今年度も、みんなが安心して暮らせるまちづくりを目指し、募金運動に取り組むこととしていきますので、温かいご支援、ご協力をお願いします。

社会福祉施設の整備に  
1,337万円

建物修繕、車両・機器整備等

県内の共同募金運動を  
推進するために  
6,693万円

地域の福祉活動に  
1億4,073万円

〈内訳〉

- ① 社会福祉協議会等の活動  
.....1億3,487万円  
高齢者・障がい者・児童・子育て  
家庭の支援、その他住民を支える  
活動（被災者・生活困窮者支援等）
- ② 地域の生活課題を解決する  
NPO団体等の活動.....86万円
- ③ ボランティア団体、町内会等  
の福祉のまちづくり活動  
.....500万円

災害対策に  
1,203万円

〈内訳〉

- ① 火災等による被災世帯への  
見舞金.....100万円
- ② 大規模災害時の支援活動に  
向けた積立て.....1,103万円

歳末たすけあい助成として  
1億4,203万円

一人暮らし高齢者や障がい者・要保護児童等への激励金、冬季間の地域交流事業、その他の地域福祉活動

※各市町村で助成内容が異なります

誰もが住み慣れた町で  
安心して暮らせる  
ことを目指して

社会福祉法人  
岩手県共同募金会  
会長 長山 洋



共同募金運動は、戦後間もない1947年に「国民たすけあい運動」として始まり、おかげさまで今年74回目を迎えました。

今日では、「地域福祉の推進」と位置づけられ、様々な福祉課題の解決を目的とした民間活動を支援する運動として、全国的に展開されています。

本年度も、皆様が安心して暮らせるまちづくりを目指し、募金運動に取り組んでまいります。温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

あなたは一人じゃない。



支える人がいて、支えられる人がいる。  
「助け合う」という言葉は、とても温かい言葉だと感じます。  
そこには「人」がいて、「人」がいる。  
ひとつは一人じゃない。一人にさせない。

「困ったときはお互いさま」の精神から生まれた赤い羽根の事業活動。  
街の中の、誰もがしんどい・今こそ、その力を発揮するときです。

募金ある社会、募金のすけあい。

赤い羽根共同募金



街頭募金に協力いただいた釜石シーウェイブス RFC の皆さん  
(釜石市共同募金委員会)



矢巾町ふれあい広場での募金活動  
(矢巾町共同募金委員会)



岩手県共同募金会・運動開始セレモニーの様子

令和元年度  
共同募金  
運動の様子  
2019



# 助成事業を募集します

岩手県共同募金会では、地域において身近な福祉課題に取り組んでいる団体や、住民に向けた福祉サービスをを行う団体の、「誰もが安心して暮らせる福祉のまちづくり」を支援し、住民参加による福祉コミュニティづくりを推進するため、助成事業を募集します。

皆さんのご応募をお待ちしています。

- 住民グループの住民対象経費
- 助成対象経費
- 幼児・児童、高齢者、障がい者、その他住民を対象に行う福祉活動に直接使用する機器・用具の購入経費
- 助成額
- 1万円から20万円まで

## 【対象となる福祉活動の例】

- 幼児・児童・青少年を対象子育て支援、児童健全育成、若者自立支援など
- 高齢者を対象見守り・配食・生活支援など高齢者を支える活動、介護予防・健康相談、ふれあいサロン、高齢者の生きがいづくりなど
- 障がい児者を対象



- その他住民全般を対象地域の福祉課題に取り組む活動、福祉講座・ボランティアの養成、心の悩みの傾聴相談、住民が自ら行う社会貢献活動など

採択団体	と良や
事業名	社会に溶け込む居場所づくり事業
解決したい課題	● 地域で居場所を失い、孤立している生きづらさを抱えた市民をつなぐこと ● 社会的居場所がない方の居場所をつくること
活動内容	● 居場所と相談「とらや」の定期開催 ● アウトリーチによる居場所「とらや」の実施 ● LINE相談、メール相談 ● 学生支援、性教育(高校生、若年女性)、参加者によるライブ等、参加者が主体性を育ていける活動
目標額	864,000円

岩手県共同募金会では、令和3年1月1日から令和3年3月31日まで、「あったかいわてプロジェクト」地域みまもり応援募金」を実施します。

この募金は、「生活課題解決支援事業」(公募事業)に採択された団体が、寄付者の理解と共感を得るため、課題解決の必要性や団体の活動アピールし、自ら募金活動を行う「テーマ型募金」です。

今年度は、次の団体が運動を展開しますので、皆様のご理解、ご協力をお願いします。

あったかいわてプロジェクト  
地域みまもり応援募金

## 助成先・助成内容のご紹介

共同募金は、高齢者のふれあいサロンや配食サービス、障がい者の就労支援や送迎サービス、子育てサロンや育児等の相談事業、地域のみまもり支援や孤立防止活動など、様々な福祉活動に役立てられています。

### 福祉のまちづくり 支援事業による助成

鵜ノ木自治会(奥州市)  
「高齢者が集いやすい環境の整備」

高齢者のサロンや季節の行事を実施して、孤立防止や健康維持、世代間交流を図るため、高齢者が行事に参加しやすいよう肘つき座椅子の購入経費を助成しました。



鵜ノ木自治会の皆さん

膝や腰の痛みの心配なく、サロンや行事を楽しめるようになりました。ありがとうございます。

### 共同募金の助成金は、災害復旧 支援にも役立てられています

#### 共同募金会の災害等準備金制度

災害等準備金とは、社会福祉法により、全国の共同募金会が毎年共同募金の一部を「災害等準備金(以下「準備金」として積み立て、大規模災害の発生時に被災地でのボランティア活動等を資金面から支援する制度です。被災地の準備金が不足するときは、全国の共同募金会から資金を拠出し、助け合う仕組みとなっています。

#### 積立額

各県一律、募金総額の3パーセントを積立て

#### 積立期間

3年間  
被災地支援に使用しない場合、積立期間経過後、助成財源に充当



普代村で家屋の泥出しをするボランティア

社会福祉法人  
普代村社会福祉協議会(普代村)  
「災害ボランティアセンター運営費」

令和元年台風19号災害により大きな被害を受けた家屋の泥出し等のボランティア活動に必要な経費を助成し、被災地の復旧を資金面から支援しました。

### 共同募金の助成金は、 東日本大震災後の地域支援にも 役立てられています

#### 被災地住民支え合い活動助成

「東日本大震災で被災した方々を応援したい」と中央共同募金会に寄せられた募金により、被災者をケア



おはなしペパンの皆さん

幅広い年代で  
楽しめるお話を語り、  
耳からの読書を分かち合うことを  
続けていきたいと思います。  
ささやかな活動を応援していただき  
ありがとうございました。

する活動を資金面から支援する制度です。岩手、宮城、福島、福島の3県で実施され、本県では、県内の復興公営住宅等の被災者を支援する団体等に、住民同士の支え合い活動などへの助成を行っています。

子ども読書支援グループ  
おはなしペパン(陸前高田市)  
「子どもも大人も暮らしの中に  
読書の喜びを」

児童や高齢者を対象とした読み聞かせを中心に、被災者の心のケアに取り組み団体で、印刷代や消耗品購入代を助成し、活動を支援しました。